

令和 5 年度

地域における地球温暖化防止活動促進事業（環境省）

地球温暖化防止活動を行う民間団体等 の活動実態調査報告書

令和 6 年 2 月

一般社団法人 環境創造研究センター

目 次

調査の実施概要	1
【ヒアリング対象団体①】 Mugi ストローライフ岩倉	2
【ヒアリング対象団体②】 新城市薪生産協議会	8

調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、環境省の「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の一環として、愛知県において、地球温暖化対策関連の活動に取り組む民間団体等（企業除く）の活動内容、活動状況について把握することを目的に実施した。

調査結果については、今回の調査団体の活動が広く認知されるようウェブサイト等での公開・紹介を行い、関係機関等への情報提供も実施した。

(2) 調査実施概要

調査実施主体	愛知県地球温暖化防止活動推進センター （一般社団法人環境創造研究センター）	
調査対象	県内で活動する民間団体 2 団体 ① Mugi ストローライフ岩倉 ② 新城市薪生産協議会	
調査方法	調査方法	・ 各団体のリーダー等の活動の中心人物に対して 1 時間程度のヒアリングによる調査を行った。 ・ 調査後、とりまとめた内容について各ヒアリング対象者に確認を依頼した。
	調査時期	① Mugi ストローライフ岩倉：令和 5 年 12 月 16 日（土） ② 新城市薪生産協議会：令和 5 年 12 月 27 日（水）

(3) 調査項目

- 設立の目的、経緯
- 構成員等の人数、構成
- 活動の詳細（内容、活動頻度など）
- 活動による効果・影響
- 活動上の課題
- 行政・企業・ほかの N P O 等民間団体との連携状況・連携の可能性と課題
- 行政・企業、愛知県センター等に期待すること など

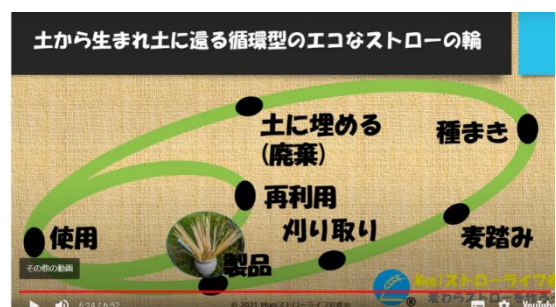
【ヒアリング対象団体①】Mugi ストローライフ岩倉

団体の概要・設立目的等	「Mugi ストローライフ岩倉」は、プラスチックストローの代替品として、麦わらストローを制作し、提案、販売を行っている愛知県岩倉市内の市民団体である。「Mugi ストローライフ岩倉」は、マイクロプラスチックを削減し、環境保全、海洋生物の生態系を保全しながら、あわせて、遊休農地の活用に寄与することを目的として、大麦の種まきから、育成・麦踏み、刈取り、ストローおよびパッケージの制作、梱包、提案・販売活動、さらには使用済みの麦ストローの回収と再生を行っている。「Mugi ストローライフ岩倉」は、2022 年に「愛知県 SDGs 登録制度」に登録されている。
設 立	2020（令和 2）年 10 月 1 日
構成員	12 名（男性 2 名、女性 10 名）（2023 年 12 月 17 日現在） 会表：林 智光 氏
主な活動内容	大麦のストローの製造・販売
連絡先	愛知県岩倉市八鈴町渚之上 TEL : 0587-74-1455 e-mail : mugi_strawlife_iwakura@protonmail.com HP : https://mugistrawlifeiwakura.com



（設立の経緯と目的）

- 団体の会長である林智光氏の親族の環境保全や麦への強い思いと提案をきっかけとして、岩倉市に市民団体を立ち上げ、友人、知人らとともに麦わらストローづくりを始めた。
- 麦わらストローは、プラスチックのストローの代替品となるものであり、紙のストローよりも丈夫で、洗って乾燥させれば何度でも使えるエコなストローである。また、使用後は土に埋めれば微生物が分解し、土に還るものである。「Mugi ストローライフ岩倉」は、マイクロプラスチックを削減し、環境保全、海洋生物の生態系を保全しながら、あわせて遊休農地の活用にも寄与することを目的として、団体メンバーが所有する 80 坪程度の遊休農地を活用し、六条大麦の種まきから、育成・麦踏み、刈取り、麦わらストローづくり（カット、乾燥、煮沸消毒）、パッケージづくり、梱包、麦わらストローの提案・販売を行っている。
- 「Mugi ストローライフ岩倉」は、SDGs の「12 つくる責任、つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」、「15 陸の豊かさを守ろう」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」への貢献を目指している。
- 「Mugi ストローライフ岩倉」という名称は、「麦ストロー」とおしゃべりを楽しみながら、自分たちのペースで活動を行う「スローライフ」を掛け合わせてつけたものである。「岩倉」は、岩倉市で行っているということを知ってもらうため市の名前をつけている。



- 「Mugi ストローライフ岩倉」は、2022 年に「愛知県 SDGs 登録制度」に登録されている。



(主な活動)

● 麦わらストローづくり

「Mugi ストローライフ岩倉」では、種まきから、育成・麦踏み、刈り取り、麦わらストローづくり（カット、乾燥、煮沸消毒）、パッケージづくり、梱包、麦わらストローの提案・販売を行っている。麦わらストローづくりを行うにあたっては、畝の作り方や種の撒き方、肥料の与え方、麦わらのカットの方法、乾燥の方法など、より効率的でよりよいストローをつくるための試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいる。現在、年間 2,000 本程度の麦わらストローを製品化している。

<種まき・麦踏み>

10 月末ごろに種まき（六条大麦）を行い、少し成長した 2 月頃、根をしっかりと張り、寒さや乾燥にも負けないように育てるために麦踏みを行う。

麦踏みはすぐに折れない強いストローをつくるための重要な作業のひとつである。



<刈り取り>

5 月の中旬頃、まだ麦が青いうちに刈り取りを行う（青田刈り）。穂が出ると、その重みで茎が曲がってしまいストローに向かなくなってしまう。また、麦色に色づいた後は、茎の水分が抜けてしまっており、硬く割れやすくなってしまう。このため、穂が出る直前に刈り取りを行うようにしている。



<乾燥・分離>

刈り取った麦は穂から一番近い節をカットして穂と茎に分離する。茎の部分は、1週間程度、吊るして乾燥させ、その後、皮をむいて節を取り除きながら、3種類の長さ(12cm、15cm、18cm)にはさみでカットして乾燥させる。

1本の麦から2~3本の麦わらストローができる(穂に近い部分は細すぎてストローに向かないことが多い)。麦は節と節の間の長さが一本一本違うため機械でカットすることはできず、手作業で行っている。



<煮沸消毒・乾燥>

酢水に1分くらい浸して漂白と殺菌を行った後、煮沸消毒(5分)を2回行う。1回目は汚れ落とし、2回目は消毒を目的としている。

煮沸消毒後は、天日干しをして乾燥させる。茎に水分が残っているとカビが発生してしまうため、十分に乾燥させている。



*検査機関に検査を依頼し、大腸菌群・黄色ブドウ球菌は陰性と証明されている。

<梱包・完成>

乾燥後、一本一本検品を行った上で、生分解性プラスチック袋を使い、圧着させて一本ずつ包装している。

すべて手作業にて行っているが、一本当たりの単価を30円と設定している。

*企業やNPO法人でも麦わらストローを制作しており、相場は、およそ1本30円である。



● 麦わらストロー『エコエ〜de ストロー』の提案、販売

「Mugi ストローライフ岩倉」では、麦わらストローの認知拡大、利用促進を図るため、「Mugi ストローライフ岩倉」の Web サイトの他、「いわくら市民ふれ愛まつり」、「寺おん×縁日」をはじめ、岩倉市内外のイベントに積極的にブース出展を行い、麦わらストローの提案、配布、販売を行っている。また、北名古屋市内の自動車ディーラーで飲み物を提供する際に麦わらストローを提供してもらっている。

また、団体の活動に賛同していただける方、支援金に協力していただいた方には 3 本入りサンプル品を配布している。また、支援金 700 円につき、麦わらストロー1 箱（50 本）と団体の紹介チラシを進呈している。（「販売」とは支援金につきストローを差し上げるという意味）

<「いわくら市民ふれ愛まつり」への出展>

岩倉市のアデリア総合体育文化センターで 11 月に開催される「いわくら市民ふれ愛まつり」にブース出展を行い、麦わらストローの提案、および麦わら雑貨の販売を行っている。



<「寺おん×縁日」への出展>

岩倉市の長要山長遠寺および夢さくら公園を会場として 5 月に開催されている「寺おん×縁日」にブース出展を行い、麦わらストローを使ったジュースの試飲等、麦わらストローの提案、および麦わら雑貨の販売を行っている。



<「AICHI SDGs EXPO2023」への出展>

愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）で 10 月 5 日、6 日、7 日に開催された「AICHI SDGs EXPO2023」にブース出展を行い、麦わらストローを使ったジュースの試飲等、麦わらストローの提案、販売を行っている。



● 麦わらストローのノベルティとしての提案

「麦わらストロー」にオリジナルラベルを印刷することで企業等のノベルティグッズとして選択してもらえるよう提案している。1袋100円、24袋/1ロットから受付けている。

* 詳細は HP から問い合わせをして下さい。



(活動による波及効果、影響)

● 麦わらストロー再生への挑戦

最近では、使用済みの麦わらストローを回収して、選別・煮沸消毒・再梱包して再度納入する麦わらストローの再生に挑戦している。これにより、新規の麦わらストロー作りにおける作業を減らすことができるため、麦わらストローの単価を大幅に削減することが可能と考えられている。

* 一本10円の価格設定としているが、選別時に汚れた箇所をカットしているため、ストローの長さが不揃いとなっている。梱包は色違いの梱包材を利用して区別している。



● ストローに使えない細い茎の活用

ストローに使えない穂の部分、青田刈りのため実が熟しておらず種として使えず、食用にも適さない。そのため、工芸品の材料としての提供を行っている。また、穂に近い、径が細くてストローに向かない部分についても、麦わらコースターやヒンメリ（細い麦わらを使った北欧の伝統的な装飾品）、麦わら雑貨づくりの材料として希望者に提供したり、ヒンメリ教室を開いたりすることで活用の提案を行っている。

<ヒンメリ教室の開催>

名古屋市守山区の志段味図書館において、「Mugi ストローライフ岩倉」の会員が講師となつて、ヒンメリ教室を開催した。



<雑貨づくりへの活用の提案・販売>

麦の穂の部分やストローに向かない径の細い茎の部分を使って、コースターやヒンメリ、その他の様々な装飾品を作り、イベントへのブース出展を行う際に、麦わらストローとあわせて提案、販売を行っている。＊雑貨は同団体所属の「むぎあ〜to」にて制作・販売を行っている。



● ドローンによる活動の様子の撮影（団体のプロモーションビデオ）

「Mugi ストローライフ岩倉」の活動を広く知ってもらうとともに、プラスチックストローから麦わらストローへの転換を促すため、大麦畑や麦わらストローづくりの様子をドローンで撮影し、「Mugi ストローライフ岩倉」の Web サイトで見られるようにしている。その他、ドローンを使った撮影の依頼募集も行っている。

（今後の課題）

● 麦わらストローづくりの継続

現在の取り組みを大きくするよりも、今できる活動を継続（スローライフ）していきたいと考えている。また、団体の活動に興味を持ってもらうために、麦わらストローづくりの体験の機会を設けていきたい。また、団員募集も行っている。

● 太くて丈夫なストローを効率的に作るための試行錯誤

麦わらストローに適した太い麦を育てるために今後も試行錯誤を続けていきたい。

● 麦わらストローの認知・利用拡大

環境保全のために、プラスチックストローの代替品として、「Mugi ストローライフ岩倉」に限らず、プラスチックストローの代替品としての麦わらストローの認知、利用拡大を進めていきたい。

【ヒアリング対象団体②】新城市薪生産協議会

団体の概要・ 設立目的等	「新城市薪生産協議会」は、新城市の湯谷温泉加温配湯施設への木質バイオマスボイラーの導入（「湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」）にあたり、その燃料となる薪を長期かつ安定的に供給することを目的として、年間生産量や価格、集積場や必要機材、その他必要事項等を協議し、地域の合意形成を図るための組織である。 「新城市薪生産協議会」のメンバーの有志で、地域から集めた木材を薪に加工し、それを燃料とする薪ボイラーの稼働管理を行う「合同会社フォレストエネルギー新城」が設立されている。
設 立	2015 年 湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業の事業化検討調査 開始 2017 年 新城市薪生産協議会 設置 2018 年 合同会社フォレストエネルギー新城 設立 2019 年 薪ボイラー稼働 開始
構成員	新城市（森林課、観光課）、愛知県、森林組合、素材生産業者、木の駅プロジェクト、温泉審議会が参加。「湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」を提起し、その検討調査を行った大西康史氏がコーディネーターを務めている。
主な事業内容	（事業化までの主な取り組み） ・技術調査（未利用間伐材をどんな方法で使うのが良いか） ・需要調査（未利用間伐材をどこで使えば良いか） ・供給可能量調査（技術、需要先に適った材は集まるか） （現在の取り組み）＊「合同会社フォレストエネルギー新城」が担う ・未利用間伐材の薪としての活用 ・湯谷温泉の加温（保温）のための薪ボイラーの稼働管理
主な活動場所、連絡先	〒441-1392 新城市字東入船 115 番地 新城市産業振興部森林課内 TEL：090-4035-9794（コーディネーター大西連絡先） e-mail：yasushi_ohnishi@m7.dion.ne.jp（コーディネーター大西連絡先）

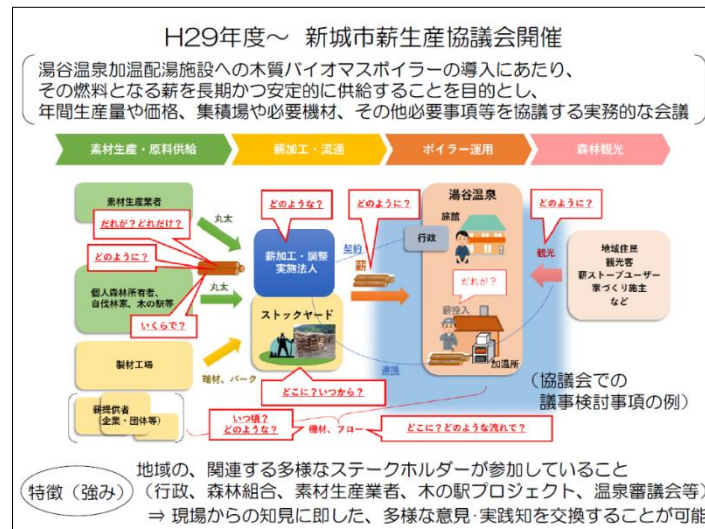
（設立の目的と経緯）

- 「新城市薪生産協議会」は、「湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」が目指す、湯谷温泉加温配湯施設への木質バイオマスボイラーの導入に向けて、その燃料となる薪を長期的かつ安定的に供給することを目的として、年間生産量や価格、集積場や必要機材、その他必要事項等について協議し、地域の合意形成を図るための組織である。
- 「新城市薪生産協議会」には、行政、森林組合、素材生産業者、木の駅プロジェクト、温泉審議会といった、地域で活躍されている多様なステークホルダーが参加しており、現場の知見に即した、多様な意見、実践知を交換する場となっている。
- 「湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」は、
 - ① 未利用間伐材の有効活用と森林整備の促進
 - ② 化石燃料からの転換による二酸化炭素排出量の削減
 - ③ 雇用の創出（間伐材を出材する雇用、間伐材を薪に加工する雇用、薪をボイラーに投入する雇用）
 - ④ エネルギー代の域外流出の防止
 - ⑤ 森林と温泉（観光）の連携（温泉の活性化・魅力向上）

⑥ 新城市と同じような条件を有する他の地域の参考となる成功事例の創出

を目的として、1300 年の歴史を有する新城市の湯谷温泉に木質バイオマスボイラーを導入し、温泉の加温（保温）を行っている。

同時に、近年急増している木質バイオマス発電は様々な問題（大量の燃料材の使用と輸送、輸入元の環境破壊等）が指摘されており、身の丈に合った規模で熱源として活用するという木質バイオマスエネルギーのあり方を提案したいと考えた。



- 「湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業」は、「新城市薪生産協議会」のコーディネーターであり、当時新城市の地域おこし協力隊員であった大西康史氏が市に提起し、検討調査を行って、始められたものである。
- その背景には、新城市は市域の 83%が森林でありながら、林業経営の縮小や廃止といった厳しい状況を抱え、市場価格が低いため出材経費が捻出できず、伐採した木がそのまま山に放置されているという課題を抱えていた。その一方で、地域には多くのノウハウや技術を持っている方々が多数おられ、地域の厳しい条件を克服し、成功事例を創り出すための条件が揃っていたことがある。
- 「新城市薪生産協議会」の協議を経て、メンバーの有志で 2018 年 10 月に薪の加工・調整と薪ボイラーの稼働管理を行う、合同会社フォレストエネルギー新城（代表社員 CEO：大西康史氏）が立ち上げられ、同年 12 月に薪生産（原木加工・乾燥）を開始、その年度末に薪ボイラー施設建設、2019 年 4 月に薪ボイラー稼働、同年 11 月に本格稼働させている。
- 合同会社フォレストエネルギー新城は、令和 4 年に「あいち生物多様性認証企業」に認証されている。



(事業化までの主な取り組み)

① **技術調査** (未利用間伐材を使うには、どんな方法が良いのか)

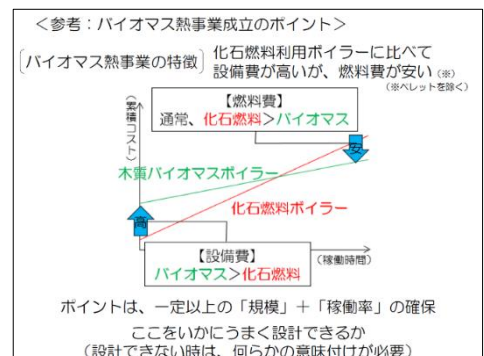
未利用間伐材の利用方法として、熱利用か発電か、また、熱利用において、薪かチップかペレットか、発電においては、蒸気タービンか ORC かガス化かについて、技術面、供給面、採算面から比較検討し、薪として熱利用することが最も妥当という結果が得られた。



② **需要先調査** (未利用間伐材は、どこで使えばよいか)

未利用間伐材の利用について、市内 49 カ所で、一定以上の「規模」と「稼働率」が確保できるか、「ボイラー設置スペース」や「更新のタイミング」に問題がないかどうかを調査した結果、湯谷温泉が適地であることがわかった。

湯谷温泉には 8 軒の温泉旅館と公共温泉施設があり、源泉 (35℃) を 1 台のボイラーで加温 (55℃) して配湯する方法をとっているが、この重油を燃料とするボイラーの更新が必要となっていた。



③ **供給可能量調査** (その技術や需要先に適った材は集まるのか)

技術や需要先に適った未利用間伐材の供給が可能かどうかについて、市内外の 47 の林業事業体等に聞き取り調査を行った結果、関係者の力を合わせれば、湯谷温泉で必要な量の数倍 (年間数千トン) を確保することは可能であることがわかった。

- ①～③の調査に加えて、2016 年にワーキンググループを開催、2017 年度からは「新城市新生産協議会」を設立、開催し、地域の現場で活躍されている方々と議論し合意を得てきた。そして、「新城市新生産協議会」の有志で、合同会社フォレストエネルギー新城を立ち上げ、事業化に結びつけている。

(現在の取り組み)

● 未利用間伐材の薪としての活用

温泉の加温（保温）の燃料の一部として利用するため、林業関係者に、これまで山に放置されていた間伐材を 1～4 mの長さに切断した状態で合同会社フォレストエネルギー新城の薪生産工場に運んでもらっている。

運ばれた間伐材は、温泉加温施設のボイラーの燃料材として使用するため、チェーンソーを使って1 mの長さに切った上で、薪割機を使って薪に加工している。加工した薪は専用のラックに詰めて 3 か月程度（季節により異なる）自然乾燥させた上で、木質バイオマスボイラー棟のストックヤードまで運び、収納している。



上：運び込まれた間伐材と加工されラックに詰められた薪

左：薪割機

下：薪生産工場に設置された説明案内板



湯谷温泉加温施設 木質バイオマスボイラー 薪生産工場
下記のことを目的として、湯谷温泉に供給する薪を生産しています。

【目的と期待できること】

- ① 未利用間伐材の有効活用と森林整備の促進
- ② 温泉加温ボイラー燃料材の、化石燃料からの転換による、二酸化炭素排出量の削減
- ③ 雇用の創出（間伐材を出材する雇用、間伐材を薪に加工する雇用、薪をボイラーに投入する雇用）
- ④ エネルギー代金の域外流出防止
- ⑤ 森林と温泉（観光）の連携

また、近年急増している木質バイオマス発電に関して、様々な問題（大量の燃料材使用や輸送、輸入元の環境破壊等に関するもの）が指摘されていますが、薪の姿に合った規模で、熱源として活用することで、そうでない木質バイオマスエネルギーのあり方を提案しています。

間伐材搬入 **玉切り** **薪割り** **乾燥**

木質バイオマスボイラーへ搬出

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

● 湯谷温泉の加温（保温）のための薪ボイラーの稼働管理

薪生産土場から木質バイオマスボイラー棟のストックヤードに運び込まれた薪を木質バイオマスボイラーに投入し、湯谷温泉の加温（保温）を行っている。

湯谷温泉の加温（保温）ボイラーでは、昼間は薪を、夜間は重油を燃料として温泉水を加温（保温）し、湯谷温泉にある 8 軒ほどの温泉旅館と公衆浴場・鳳来ゆ〜ゆ〜ありいな等を送っている。



上・右：昼間は木質バイオマスボイラーに薪を投入し、湯谷温泉を加温（保温）している

下：木質バイオマスボイラー棟に設置された説明案内板



(これまでの実績)

① 未利用間伐材等の活用

これまで間伐材は市場価格が低いため出材経費が捻出できず、多くが山に切り捨てられたままになっていたが、湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業によって、累計 3,650 m³ 強の未利用間伐材等を活用することができている。

同時に、間伐材をボイラーの燃料材として活用するようにしたことで、出材経費を捻出できるようになり、森林整備が促進され、森林が有する水源涵養や土砂災害防止、生物多様性の保全に貢献することができている。



② CO₂ 排出量の削減

湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業によって、年間約 200 トンの CO₂ を削減することができている。これは、新城市役所本庁舎（建て替え前）の年間排出量に相当する。

【実績②】 200t-CO₂/年超 (累計898t-CO₂) の二酸化炭素排出量の削減

施設名	二酸化炭素 排出量 (t-CO ₂)	施設名	二酸化炭素 排出量 (t-CO ₂)
アライセンター	6740.0	杉山ポンプ場	226.7
市民病院	2699.4	産業振興センター	221.1
風光ゆへゆへありいな	1081.7	中流浄水場	218.8
湯谷温泉配水池	719.9	八木新ポンプ場	213.2
新緑水場	536.0	北沢第1浄水場	161.2
新緑地域文化広場	526.9	高尾山5号浄水場 (環境センター3)	160.9
新緑水産振興センター	447.9	伊予総合支庁庁舎	128.0
川原水場	412.2	高尾山浄水場	124.6
環境センター	328.9	新緑水産振興センター	117.3
しんしろ農園	242.2	しんしろ農園施設	102.3
山びこ牧場	233.6	企業市民館	102.0
本庁舎・県庁舎・第2庁舎	232.1		

出典：新緑市地球温暖化防止実行計画（第2次計画）
日中の化石燃料（重油）使用量削減により、→ 気候変動防止に貢献
この一部を削減

「新城市薪生産協議会」のコーディネーターであり、湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業を提起した大西康史氏は、学生時代から環境について学ぶだけではなく、学んだことを社会課題の解決のために実践すべく環境保全活動にも取り組んできた方である。

大学時代は、サークル活動で「京大ゴミ部」に所属し、リサイクルではなく、ごみを出さない社会の仕組みづくりを考えたり、「チビッコ環境塾」や大学内の「ごみ箱プランコンテスト」など様々な活動を行っている。大学院を修了した後は、環境の専門職採用のあった広島県庁に就職し、県職員として働きながら庁内サークルを立ち上げ、ごみゼロオフィスを目指す活動を行っている。同時に NPO にも所属し、「環境首都コンテスト」に参加するなど、三足のわらじで環境に関わる活動をしている。この「環境首都コンテスト」には、新城市も参加していた。

その後、東日本大震災や県庁内での異動を契機として、社会課題の解決のためなら自分で事業を起こすべきではないかと考えるようになり、県職員を退職し、広島県で再生可能エネルギーの一般社団法人を設立している。そして、事業がまだ軌道にのっていなかった 2015 年、新城市が再生可能エネルギーをテーマにした地域おこし協力隊員を募集していると知ってこれに応募し、新城市での生活が始まっている。

幼い頃から「社会のために役に立つ何かをやりたい、自分の使命とは何か」を考え続け、再生可能エネルギーに取り組んできた大西氏は、新城市の湯谷温泉で、金儲けとしてではなく、そこに住む人の暮らしの幸せにつながるものとして、自身の夢と薪生産と木質バイオマスボイラーの取り組みを実現させている。



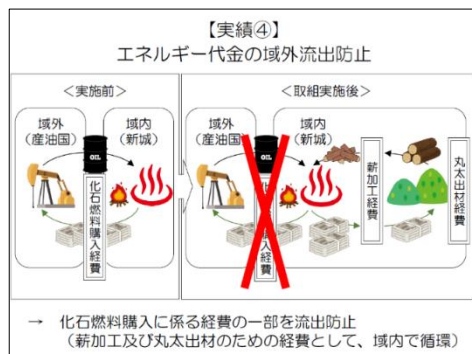
③ 雇用の創出

湯谷温泉木質バイオマス熱利用事業によって、未利用間伐材を出材する雇用（30 弱の林業事業体、個人に出材対価を支払っている）、未利用間伐材を薪に加工する雇用（複数名）、薪をボイラーに投入する雇用（1 名）を創出している。



④ エネルギー代金の域外流出防止

湯谷温泉では、それまで温泉の加温・保温に化石燃料を使用しており、昼間の燃料を木質バイオマスに替えたことによって、化石燃料購入に係る経費の一部の流出を防止し、薪加工及び丸太出材のための経費として域内で循環させることができています。



（今後の展開と課題）

● 現在の活動の継続・維持のための問題への取り組み

温泉木質バイオマス熱利用事業の当初の目的は、これまでにほぼ達成できている。また、事業を提起した大西氏の幼い頃からの個人的な夢も形になってきている。一方で、労働時間が非常に長いという問題や林業関係者の高齢化、間伐材の切り出しが難しくなっていること、物価高など、様々な難しい問題を抱えている。現在の活動を継続、維持するために、これらの問題に取り組むことが不可欠となっている。

● 成功事例としての発信・PR と同じような条件を有する地域への横展開

温泉木質バイオマス熱利用事業の当初の目的の中に、森林面積の多い他地域の参考となる成功事例となることや、全国で導入・検討されている木質バイオマス発電が様々な問題を抱えている中で、木質バイオマスエネルギーのあり方を提案したいというものがある。今後は、新緑市での成功を広く発信・PR し、同じような条件を有する地域への横展開をするための活動をしていきたいと考えている。

● 森林と温泉の連携による、温泉の活性化、魅力向上

温泉木質バイオマス熱利用事業の発信・PR とあわせて、湯谷温泉の魅力の向上と PR を行い、観光地としての地域の活性化を図っていくことが必要と考えている。

令和５年度
地域における地球温暖化防止活動促進事業
(愛知県地球温暖化防止活動推進センター)

地球温暖化防止活動を行う民間団体等の活動実態調査

報 告 書

発行 令和６年２月

問合せ先 一般社団法人 環境創造研究センター
〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜 2-4-1
TEL : 052-934-7295 FAX : 052-932-7296
E-mail : cca-info@kankyosoken.or.jp
URL : <http://www.kankyosoken.or.jp/>